

蒲生干潟の植物⑬

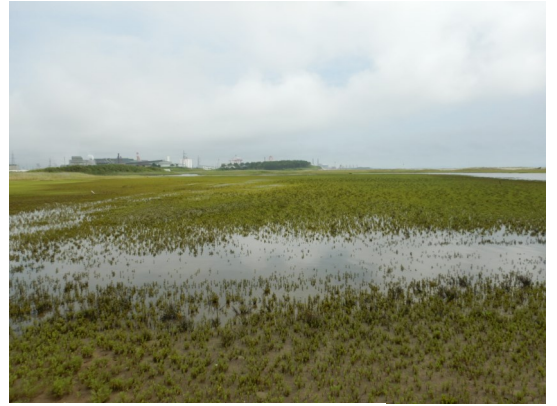
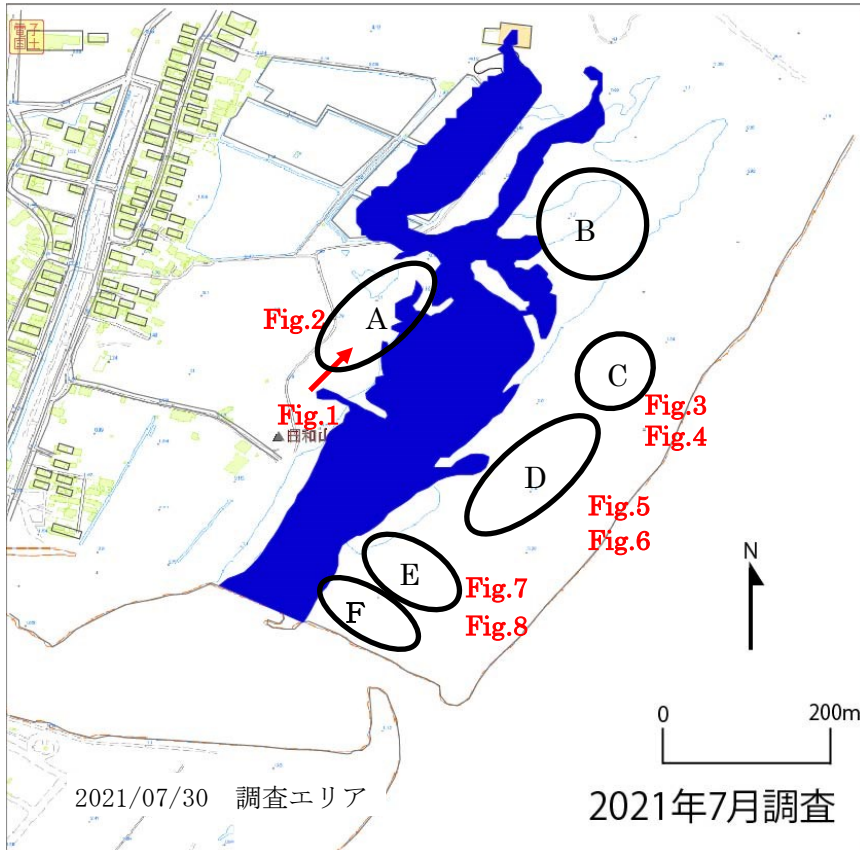
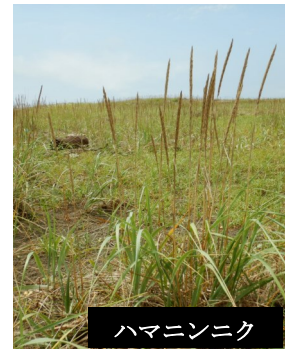


Fig.1 エリアAを南東側から撮影



ハママツナ

Fig.2 エリアAで撮影



ハマニンニク

Fig.3 エリアCで撮影



ハマニガナ

Fig.4 エリアCで撮影



メマツヨイグサ

Fig.5 エリアDで撮影



ハマボウフウ

Fig.6 エリアDで撮影



コマツヨイグサ

Fig.7 エリアEで撮影



オカヒジキ

Fig.8 エリアEで撮影

調査日時：2021年7月30日（金）9:30～11:00，天気：晴れ

満潮後の調査のため、全体的に海水が多く流入していた。南西方向からの定点観測では、一面にハママツナが広がっている（Fig.1）。干潟全体をみてもハママツナは、満潮時に海水が浸るエリア全体に広がっており、海水が届かないエリアには非常に少ないことが分かった。エリアCやエリアDなど干潟の東側の砂地全体にハマニンニク、ハマニガナ、コウボウムギが広がっていた（Fig.3, Fig.4）。エリアDでは、メマツヨイグサが花を咲かせていた（Fig.5）。メマツヨイグサは群生せず、10～15m間隔で点在して咲いていた。ハマボウフウも個体数は多くないが、前回よりも大きく成長しているのが分かる（Fig.6）。現在、どちらも個体数はさほど多くはないので、来年以降の個体数の変化に着目して今後も調査したい。エリアEの砂地には、花が終わった頃のコマツヨイグサが見られた（Fig.7）。また、近くにはオカヒジキが点在して多数見られた（Fig.8）。エリアFでは、オニハマダイコンが大きく成長し、1個体で幅が1mにまで成長した個体もあった。花はまだ見られなかった。

（宮崎佳彦）